

# 令和3年度「国語に関する世論調査」の結果について

文化庁国語課

令和4年9月30日に公表した令和3年度「国語に関する世論調査」の結果の一部を紹介する。なお、全体の調査結果は文化庁ウェブサイトで公開している。

[https://www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/tokeichosa/kokugo\\_yoronchosa/index.html](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/index.html)



## 概要

文化庁では、国語施策の参考とするとともに、国民の国語への関心を喚起するため、平成7年度から毎年度「国語に関する世論調査」を実施している。

令和3年度の「国語に関する世論調査」では、国語や言葉への関心、生活の変化とコミュニケーション、ローマ字表記、慣用句等の意味・言い方など全部で13の項目について調査した。調査結果は、文化審議会国語分科会の審議資料とする等、国語施策の立案に資する。

ここでは、今回の調査結果のうち、国語や言葉への関心、ローマ字表記、慣用句等の意味・言い方などについての設問を紹介する。

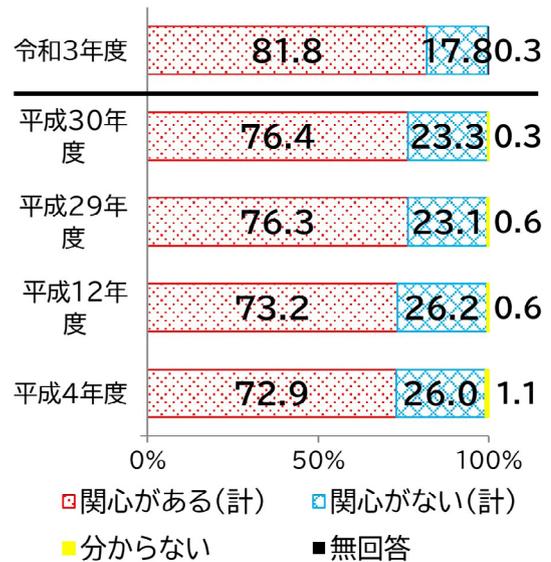
なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年度調査以降、調査方法を令和元年度以前の面接聴取法から郵送法に変更した。そのため、令和元年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要である。

## 国語に関心があるか

日常の言葉遣いや話し方、あるいは文章の書き方など、

国語について、どの程度関心があるかを尋ねた。

図1 国語に関心があるか



※ 調査方法変更のため、過去調査は参考値となる。

結果は、「非常に関心がある」を選択した人の割合が13.9%、「ある程度関心がある」が68.0%で、この二つを合わせた「関心がある(計)」は81.8%となっている。一方、「全く関心がない」が1.0%、「余り関心がない」が16.8%で、この二つを合わせた「関心がない(計)」は17.8%となっている。

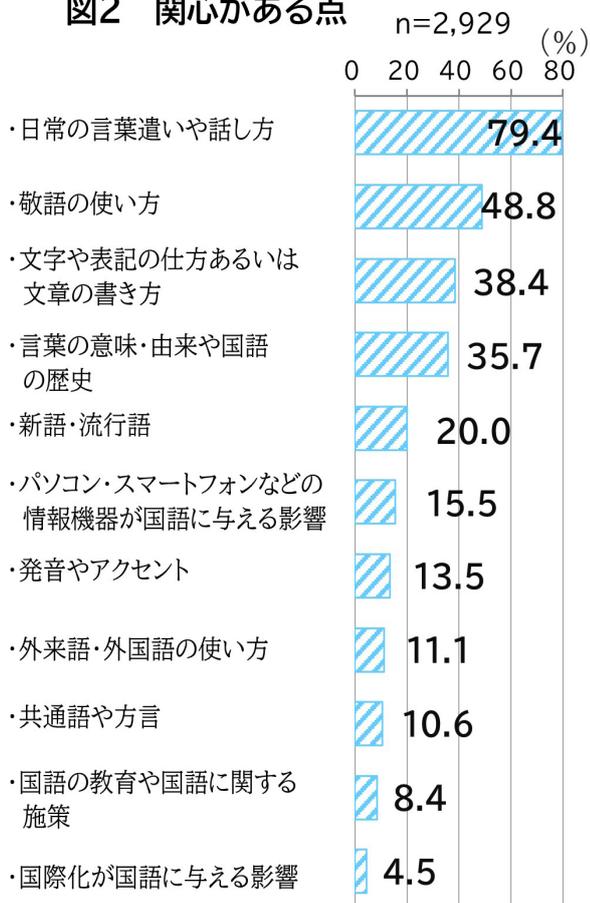
過去の調査結果(平成4, 12, 29, 30年度)と並べて見ると(図1)、「関心がある(計)」は、これまでやや増加傾向にあり、今回調査でも同様の傾向が見られる。

## 関心がある点

国語に「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」と回答した人(全体の81.8%)に、どのような点に関心が

あるかを尋ねた（選択肢の中から三つまで回答）（図2）。

図2 関心がある点



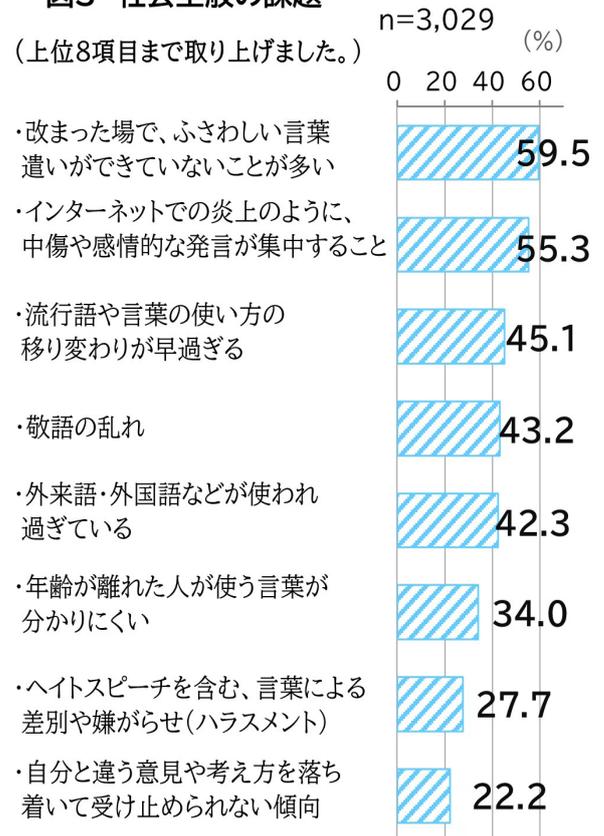
結果は、「日常の言葉遣いや話し方」（79.4%）の割合が他に比べて高く、次いで「敬語の使い方」が48.8%、「文字の表記の仕方あるいは文章の書き方」が38.4%、「言葉の意味・由来や国語の歴史」が35.7%となっている。

## 社会全般の課題

言葉や言葉の使い方について、社会全般で、課題があると思うかという問いに、「あると思う」と回答した人（84.6%）に対し、社会全般で、どのような課題があると思うかを尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）（図3）。結果は、「改まった場で、ふさわしい言葉遣いができていないことが多い」（59.5%）、「インターネットでの炎上のように、中傷や感情的な発言が集中すること」（55.3%）の

割合が他に比べて高く、次いで「流行語や言葉の使い方の移り変わりが早過ぎる」が45.1%、「敬語の乱れ」が43.2%、「外来語・外国語などが使われ過ぎている」が42.3%となっている。

図3 社会全般の課題



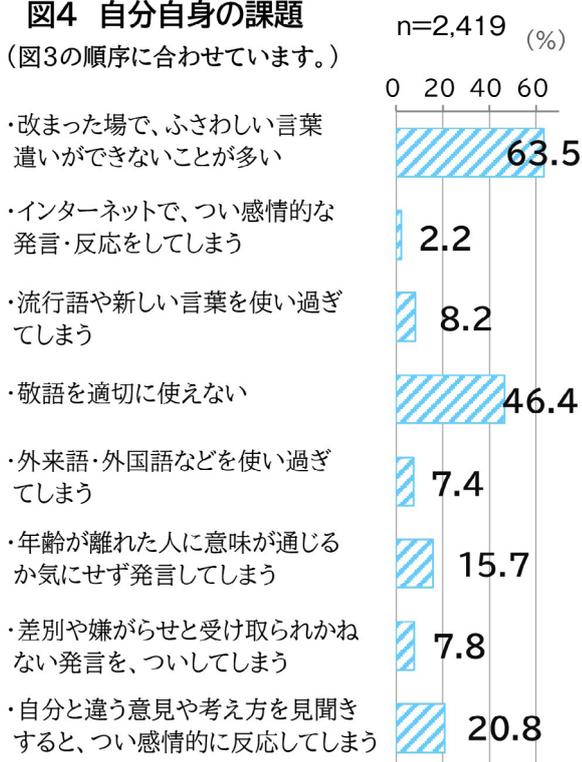
## 自分自身の課題

言葉や言葉の使い方について、自分自身に、課題があると思うかという問いに、「あると思う」と回答した人（67.6%）に対し、自分自身に、どのような課題があると思うかを尋ねた（選択肢の中から幾つでも回答）（図4）。

結果は、「改まった場で、ふさわしい言葉遣いができていないことが多い」（63.5%）の割合が他に比べて高く、次いで「敬語を適切に使えない」が46.4%、「漢字で書くべきか仮名で書くべきか、適切に判断できない」が27.1%となっている。

図4 自分自身の課題

(図3の順序に合わせています。)



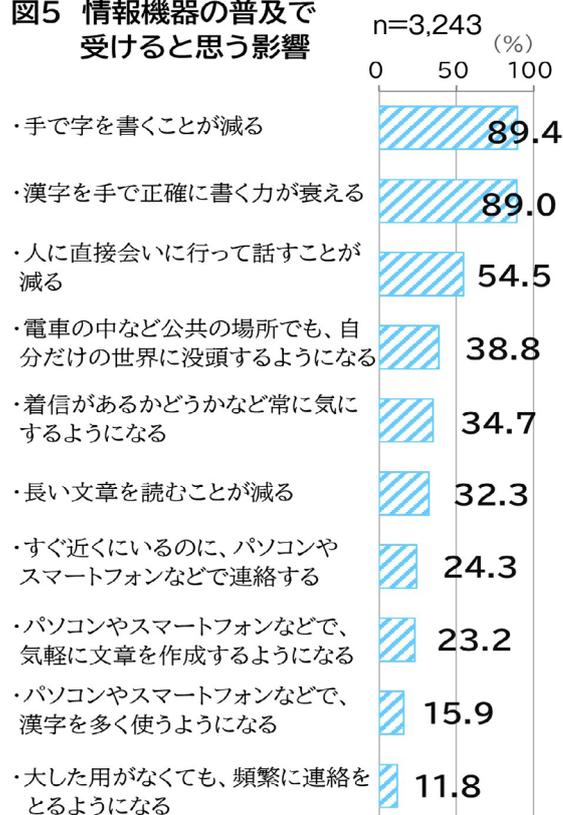
なお、社会全般について尋ねた前の問いで回答の割合が2番目と3番目に高かったものに対応する「インターネットで、つい感情的な発言・反応をしてしまう」が2.2%、「流行語や新しい言葉を使い過ぎてしまう」が8.2%となっている。

## 情報機器の普及で受けると思う影響

パソコンやスマートフォンなどの情報機器の普及によって、社会における言葉や言葉の使い方が影響を受けると思うかという問いに、「影響を受けると思う」と回答した人(90.6%)に対し、どのような形で影響があると思うかを尋ねた(選択肢の中から幾つでも回答)(図5)。

結果は、「手で字を書くことが減る」(89.4%)、「漢字を手で正確に書く力が衰える」(89.0%)の割合が他に比べて高く、次いで「人に直接会いに行って話すことが減る」が54.5%となっている

図5 情報機器の普及で受けると思う影響

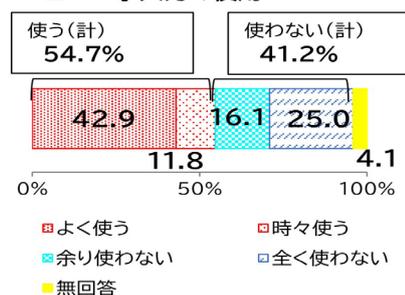


## ローマ字入力の使用とローマ字表記

パソコンやスマートフォンなどの情報機器で日本語を入力するとき、ローマ字入力(「ことば」と表示させるために「kotoba (KOTOBA)」と入力するような方法)を使うかを尋ねた(図6)。

結果は、「よく使う」を選択した人の割合が42.9%、「時々使う」が11.8%で、この二つを合わせた「使う(計)」は54.7%となっている。一方、「全く使わない」が25.0%、「余り使わない」が16.1%で、この二つを合わせた「使わない(計)」は41.2%となっている。

図6 情報機器におけるローマ字入力の使用



また、「明石（あかし）」「愛知（あいち）」などの言葉を、ローマ字で書き表すとしたら、ここに挙げた中ではどの書き表し方を使うか尋ねた。

結果は以下のとおりである（図7～12）。図で赤く示されたものは「ローマ字のつづり方」（昭和29年内閣告示）の第1表、青く示されたものは第2表（いわゆるヘボン式）による表記である。

### (1) 明石（あかし）

「Akashi」と回答した人の割合が75.4%、「Akasi」の割合が23.3%となっている。



### (2) 宇治（うじ）

「Uji」と回答した人の割合が81.1%、「Uzi」の割合が17.5%となっている。



### (3) 愛知（あいち）

「Aichi」と回答した人の割合が88.0%、「Aiti」の割合が10.8%となっている。



### (4) 厚木（あつぎ）

「Atsugi」と回答した人の割合が61.0%、「Atugi」の割合が37.6%となっている。

図10 ローマ字表記 (4)厚木(あつぎ) (%)



### (5) 岐阜（ぎふ）

「Gifu」と回答した人の割合が83.1%、「Gihu」の割合が15.6%となっている。

図11 ローマ字表記 (5)岐阜(ぎふ) (%)



### (6) 五所川原（ごしょがわら）

「Gosyogawara」と回答した人の割合が54.8%、「Goshogawara」の割合が43.9%となっている。

図12 ローマ字表記 (6)五所川原(ごしょがわら) (%)



調査では、このほか、日本語をローマ字で書き表すことに関する設問を多く尋ねている。設問の詳細は、冒頭で紹介した文化庁ウェブサイトを参照いただきたい。

## 新しい言葉

「正直なところまずい」ということを、「ぶっちゃけまずい」と言うなど、下線部分の言い方を使うことがあるか、ほかの人が使うのが気になるかを尋ねた（表1）。

結果は、「使うことがある」の割合が高いものほど、「気にならない」の割合が高くなる傾向があり、「使うことがある」・「気にならない」と回答した割合が高い順に、それぞれ、「すごい速い」が59.0%・79.2%、「なにげにそうした」が47.1%・64.3%、「半端ない」が46.4%・60.2%、「ぶつ

「ちゃけまずい」が41.4%・55.7%となっている。

## 慣用句等の意味・言い方について

例年尋ねている、慣用句などの言葉の意味・言い方について問いの結果は表2と表3のとおりである。表中の太字は、辞書等で主に本来の意味・言い方とされてきた選択肢である。また、白抜き数字は、辞書等で本来の意味・言い方とされてきた方を選択した割合より、そうでない方を選択した割合が5ポイント以上高いものである。

慣用句等の意味（表2）では、「(2) 姑息（こそく）」「(3) 割愛する」が辞書等で本来の意味とされてきたものとは異

なる方が多く選択されるという結果となっている。

慣用句の言い方（表3）では、辞書等で本来の言い方とされてきた(2)「(b) 声を荒（あら）らげる」を使う割合は、それとは異なる「(a) 声を荒（あ）らげる」を下回っている。

なお、文化庁ウェブサイトでは本調査を基にした慣用句等についての動画「ことば食堂へようこそ!」を公開している。こちら是非御覧いただきたい。

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kokugo\\_shisaku/kotoba\\_shokudo/index.html](https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kotoba_shokudo/index.html)



(数字は%)

表1

	使うことがある	使うことはない	気になる	気にならない
「あの人は走るのがすごく速い」ということを、 「あの人は走るのがすごい速い」と言う	<b>59.0</b>	37.5	17.3	<b>79.2</b>
「なにげなくそうした」ということを、 「なにげにそうした」と言う	<b>47.1</b>	49.4	32.2	<b>64.3</b>
「中途半端でない」ということを、 「半端ない」と言う	<b>46.4</b>	50.0	36.4	<b>60.2</b>
「正直なところまずい」ということを、 「ぶっちゃけまずい」と言う	<b>41.4</b>	55.2	40.9	<b>55.7</b>
「実態などを分かりやすく示すこと」を、 「見える化」と言う	<b>27.6</b>	69.0	40.3	<b>56.3</b>
「あの人みたいになりたい」ということを、 「あの人がなりたい」と言う	<b>24.4</b>	71.9	43.2	<b>53.3</b>
「そうではなくて」ということを、 「ちがくて」と言う	<b>20.2</b>	76.3	60.5	<b>36.0</b>

表2

(数字は%)

(1) 揚げ足を取る 例文：人の揚げ足を取る	令和3年度	
(ア) 言い間違いや言葉じりをとらえて 責めたりからかったりする	<b>65.9</b>	
(イ) 失敗ややり損ないを見て責めたり からかったりする	8.8	
(2) 姑息（こそく） 例文：姑息な手段	令和3年度	平成22年度
(ア) 「一時しのぎ」という意味	<b>17.4</b>	<b>15.0</b>
(イ) 「ひきょうな」という意味	<b>73.9</b>	70.9
(3) 割愛（かつあい）する 例文：説明は割愛した	令和3年度	平成23年度
(ア) 不必要なものを切り捨てる	<b>65.3</b>	65.1
(イ) 惜しいと思うものを手放す	<b>23.7</b>	<b>17.6</b>

表 3

(数字は%)

(1) 世間の注目の的となること	令和3年度	
(a) 脚光を浴びる	83.4	
(b) 脚光を集める	7.8	
(2) 大きな声を出すこと	令和3年度	平成22年度
(a) 声を荒(あ)らげる	79.7	79.9
(b) 声を荒(あら)らげる	12.2	11.4
(3) 割つきりなしに続くさま	令和3年度	平成23年度
(a) のべつくまなし	27.1	32.11
(b) のべつまくなし	41.9	42.8

備考： 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年度調査以降、調査方法を令和元年度以前の面接聴取法から郵送法に変更した。そのため、令和元年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要である。

百分比は各問いの回答者数を100%として算出し、小数第2位を四捨五入して示しているため、百分比の合計が100%にならない場合がある。内訳とその小計においても同様である。また、百分比の差を示す「ポイント」については、小数第1位を四捨五入して示した。